

がん相談支援センター【ロビーセミナー】

抗がん剤治療の副作用対策 ～熱がでたらどうする？～



兵庫県立がんセンター 薬剤部



本日の内容

1. 骨髄抑制とは
2. 発熱時に処方される薬・飲み方

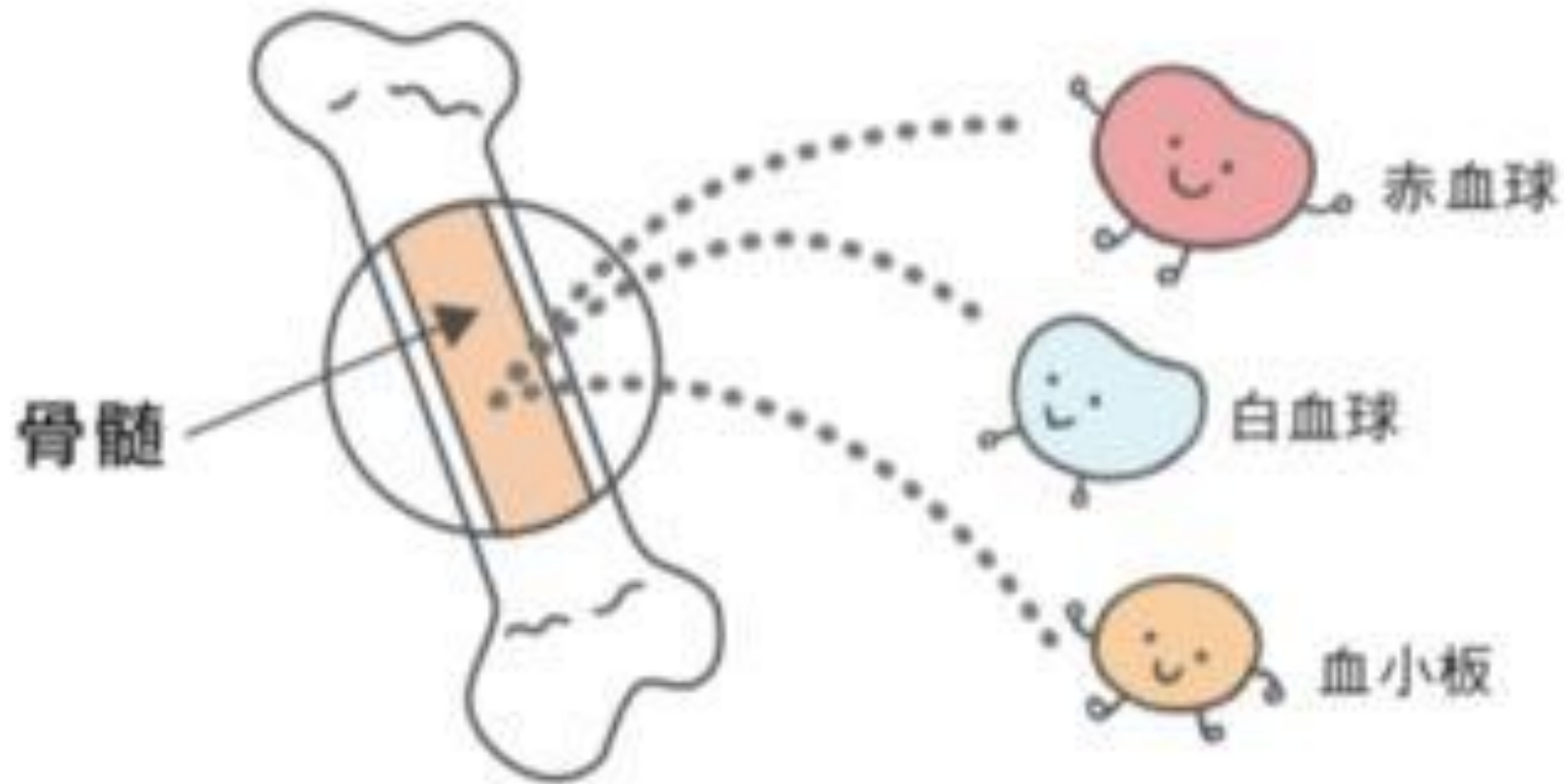


本日の内容

1. 骨髄抑制とは
2. 発熱時に処方される薬・飲み方



「骨髓」とは



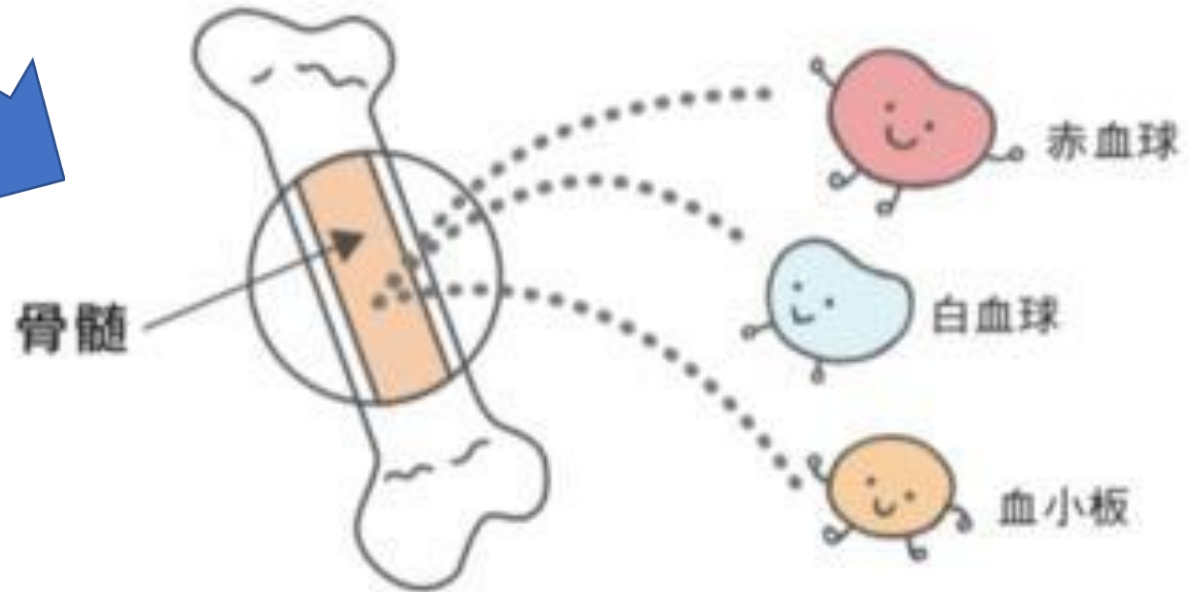
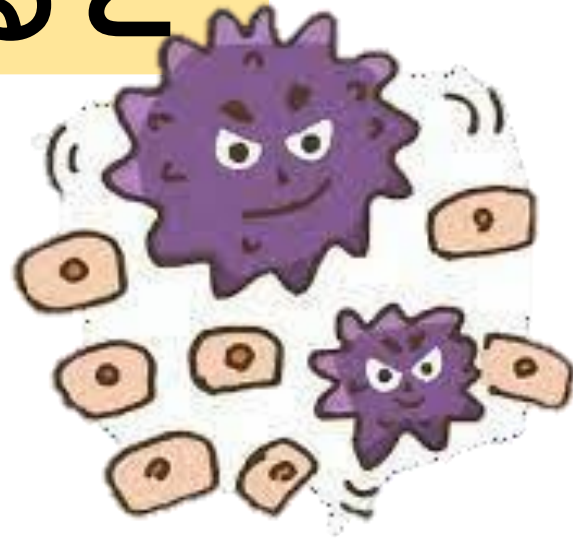
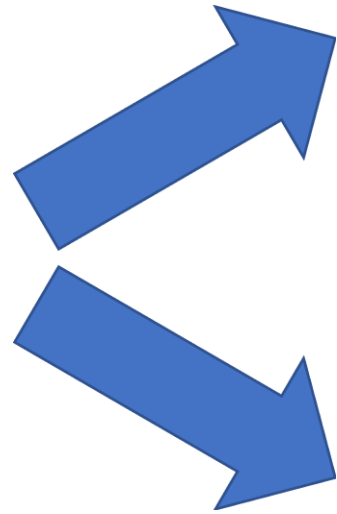
骨の中心にある血液を作っている部分



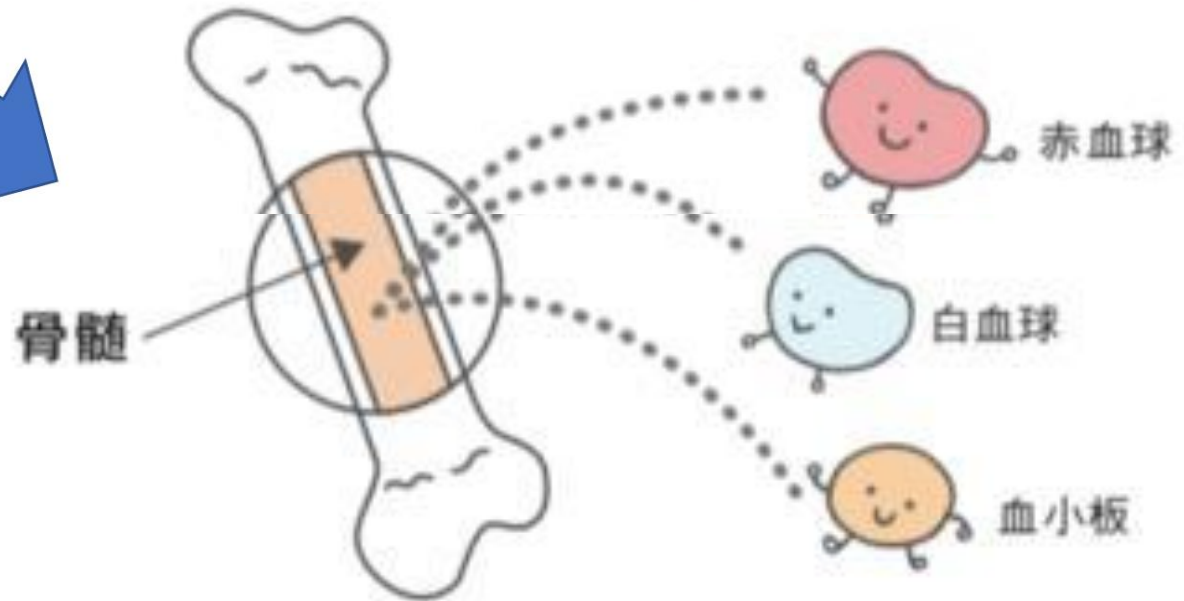
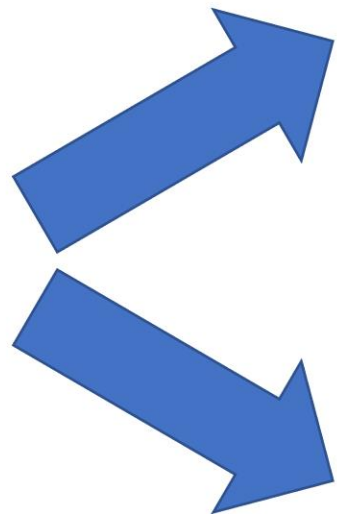
抗がん剤治療をすると



抗がん剤治療



抗がん剤治療をすると



抗がん剤治療をすると

がん細胞を
攻撃

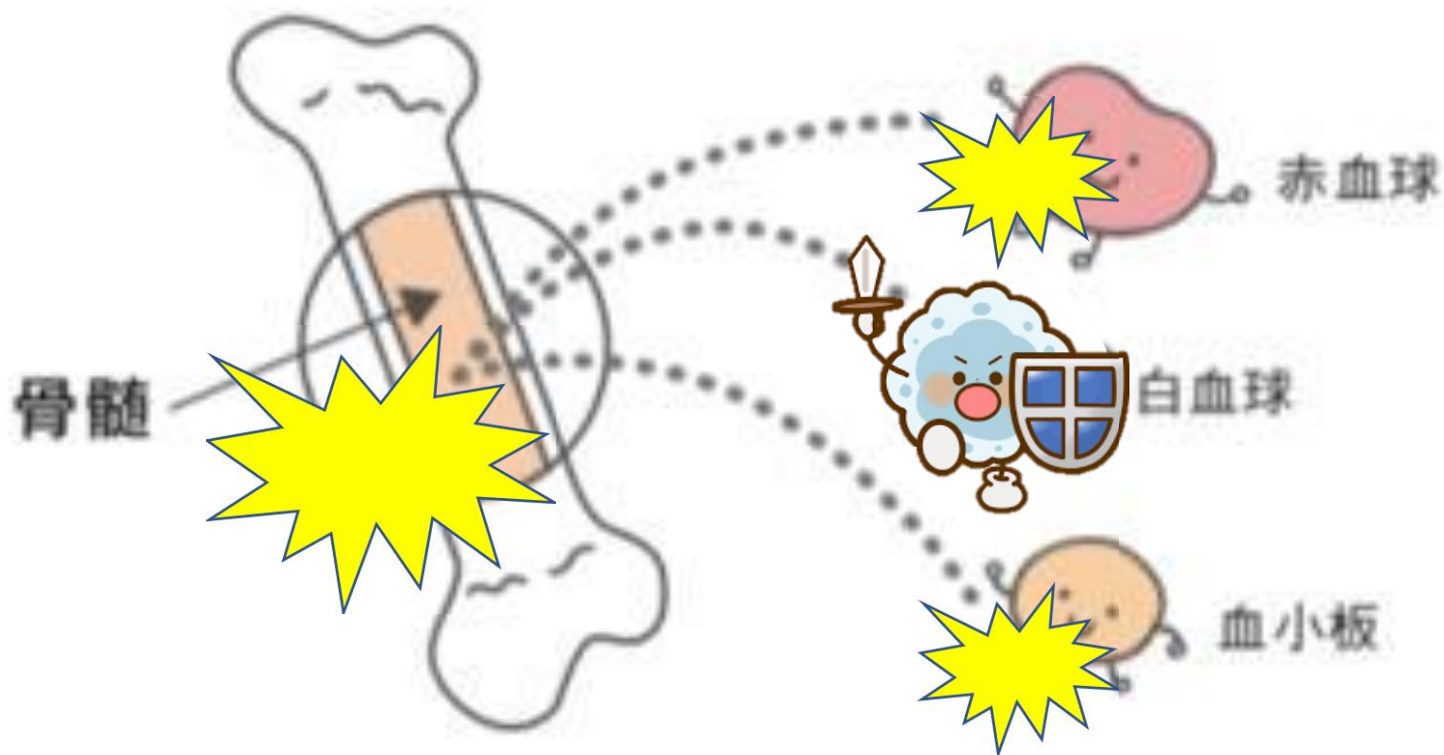
骨髄にも
影響

骨髄
抑制

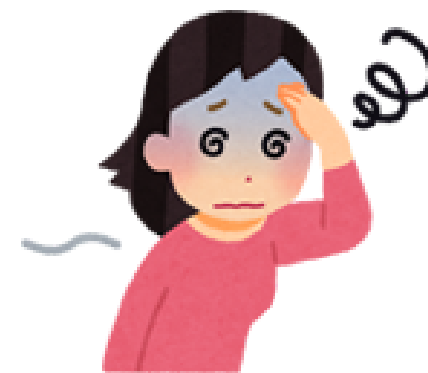
抗がん剤治療



「骨髓抑制」による症状とは



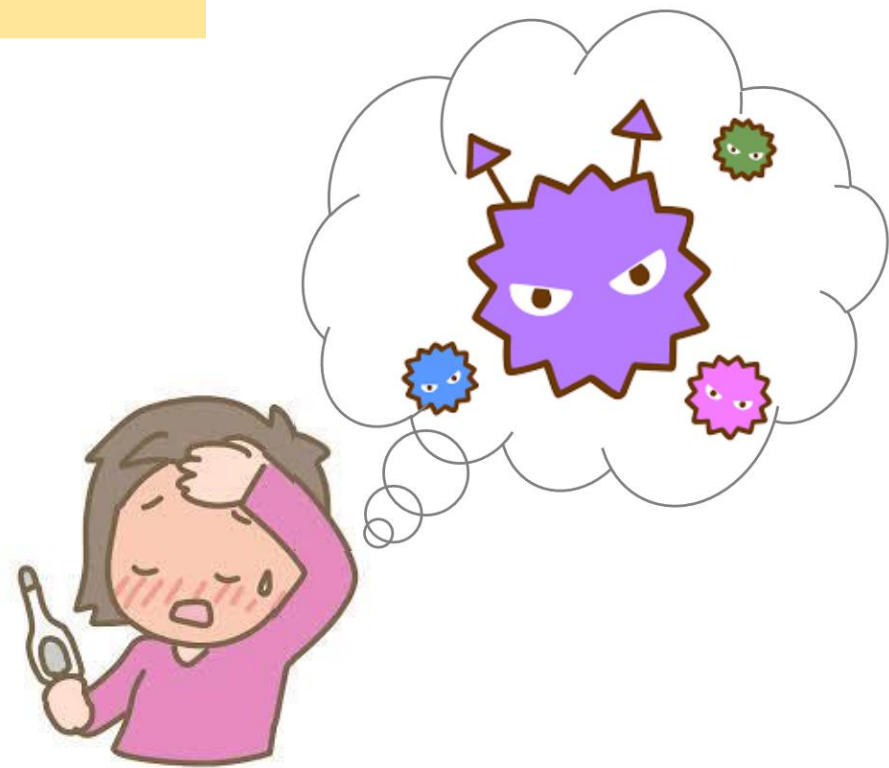
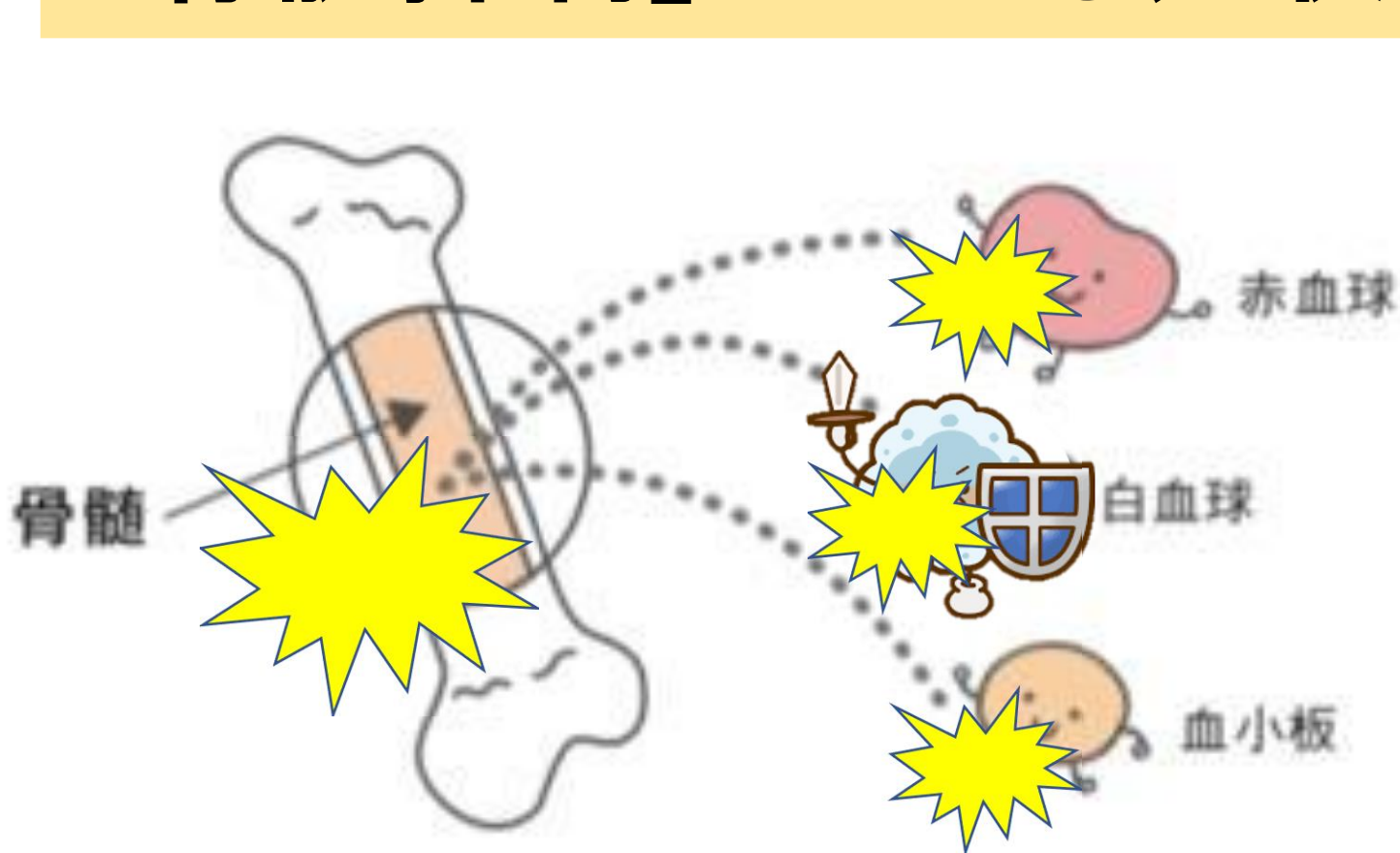
貧血



出血



「骨髄抑制」による症状とは



感染症にかかりやすくなる



感染症にかからないために



手洗い

うがい

マスク



本日の内容

1. 骨髄抑制とは
2. 発熱時に処方される薬・飲み方



前もって処方される「発熱時」の薬



げねっ
① 解熱鎮痛剤



② 抗生物質



① 解熱鎮痛剤



- ・ カロナール
- ・ ロキソプロフェン



① 解熱鎮痛剤



【目的】 熱を下げる

【飲むタイミング】 発熱時



① 解熱鎮痛剤



【飲み方】 ※主治医の指示に従ってください



カロナール：1日3～4回まで

(4時間以上あけて)

ロキソプロフェン：1日3回まで



① 解熱鎮痛剤



【効果を感じるタイミング】

※個人差あり 30～60分

【注意点】

薬を飲む前に熱を測り、体温を把握する



② 抗生物質（抗菌薬）



レボフロキサシン



②抗生物質（抗菌薬）



【目的】 体内の菌を攻撃する

【飲むタイミング・飲み方】

- ・ 38°C以上の発熱時に服用開始
- ・ 1回1錠 1日1回（24時間毎）
- ・ 熱が下がっても7日間 飲みきる



② 抗生物質（抗菌薬）

38°C



火



げねっ
「① 解熱鎮痛剤」
同時に飲んでOK



② 抗生物質 (抗菌薬)

38°C



37.3°C



② 抗生物質（抗菌薬）

7日間
飲みきる

38°C



37.3°C

36.2°C



35.9°C

36.0°C

...



火

水

木

金

土

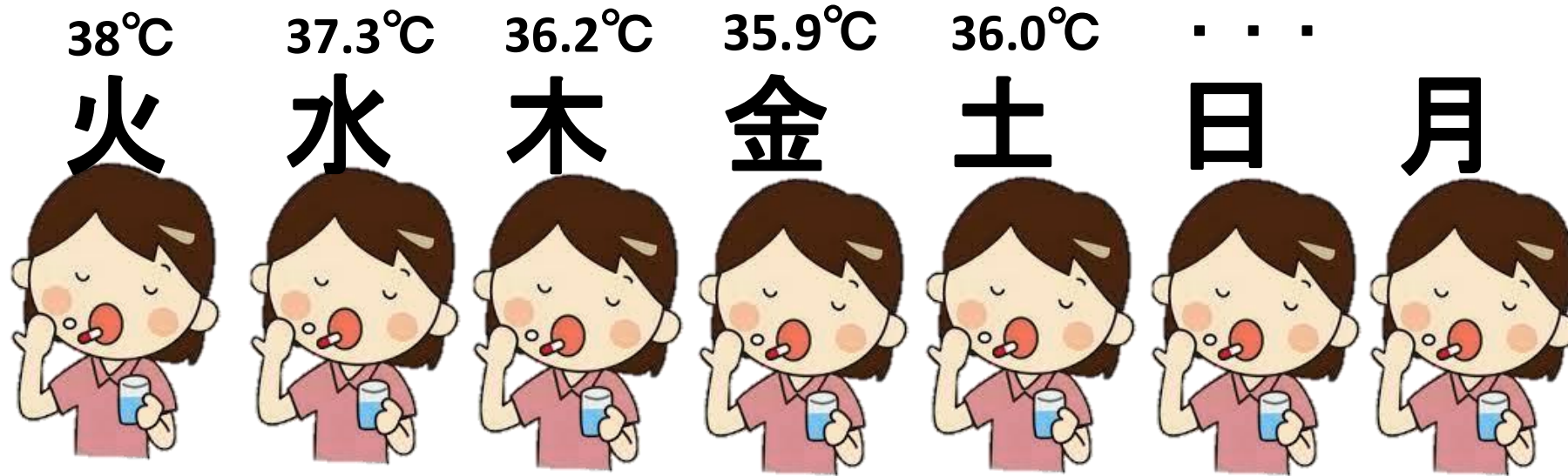
日

月



② 抗生物質（抗菌薬）

熱が下がった場合も、必ず7日間、
薬をすべて飲みきってください。
中止してはいけません。



②抗生物質（抗菌薬）



【注意点①】

抗生物質を飲む前に主治医に電話する
よう指示がある場合もあります

※主治医やスタッフの指示に
従ってください



②抗生物質（抗菌薬）



【注意点②】

以下のような時は**主治医に電話**する

息が苦しい・ゼーゼーする・
息をすると胸が痛い・
お腹が痛い・下痢・
ぐったりする・水分が摂れない



② 抗生物質（抗菌薬）



【注意点③】

以下のような時は**主治医に電話**する



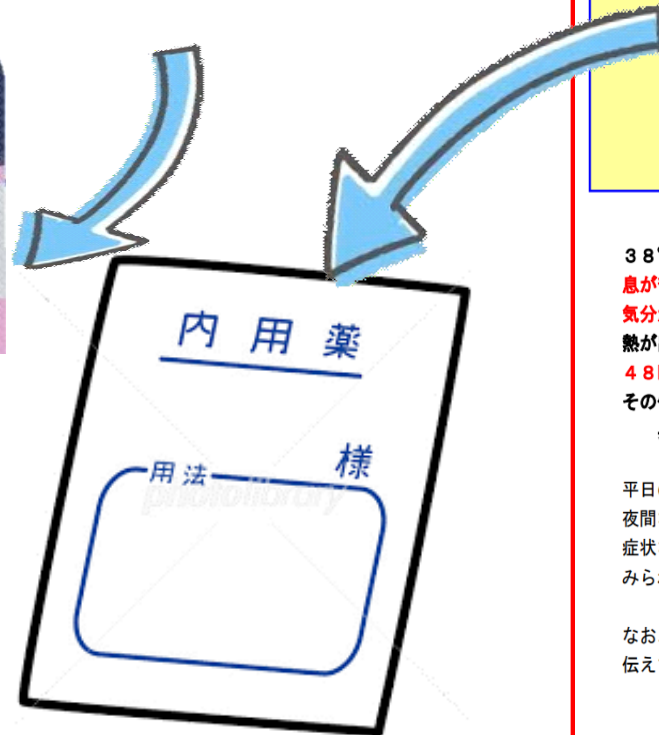
レボフロキサシンを2日飲んでも
38°C以上の発熱がある場合



説明書

②抗生物質（抗菌薬）

薬(レボフロキサシン錠)と一緒に入っている説明書をよく読んでください



お薬のしおり（レボフロキサシン錠）

発熱時に服用する飲み薬について



レボフロキサシン錠 500mg

1回1錠 1日1回 24時間毎

体の抵抗力が落ちておこる細菌感染に対するお薬です

（熱の原因となっている細菌に働きます
直接熱を下げる“解熱剤”ではありません）

38℃以上発熱時に服用を開始してください。

熱が下がった場合も、必ず7日間、薬をすべて
飲みきってください。中止してはいけません。

マグミット、酸化マグネシウムを服用する場合は、
レボフロキサシン服用後2時間くらいあけて下さい。
（レボフロキサシンの服用時間は変えないで下さい）

38℃以上発熱した時に、

息が苦しい・ゼーゼーする・息をすると胸が痛い・お腹が痛い・下痢がする・ぐったりする
気分が悪く水分もとれない などのつらい症状がある場合や、

熱が出て薬（レボフロキサシン）を飲み始めてから、

48時間以上（丸二日間）経過しても、38℃以上の発熱がある場合や、

その他、気になる症状がある場合には、

兵庫県立がんセンターにすぐご連絡下さい。（078-929-1151 代表）

平日の9時～17時の間であれば、主治医が対応します。夜間でもかまいません。
夜間などで連絡が取れない場合には当直の医師が対応します。その際には、現在の状態や
症状などをお聞きして、すぐ受診が必要か、点滴などを行った方がよいか、飲み薬で様子
みられるかなどを判断して指示がありますので、その指示に従ってください。

なお、38℃以上の熱が出て、この薬を使用した場合は、次回来院時に担当医師にその旨を
伝えて下さい。（今後も化学療法を行う場合は補充の処方追加や、必要な検査が行われます）

②抗生物質（抗菌薬）

【飲み合わせ】

・ マグミット



×



・ クエン酸第一鉄



×



2時間あけてください



安全に抗がん剤治療を行うために
治療中に発熱した時の対応は
知っておいてください。

